

# 震度階級・南海トラフ地震関連情報

## ●震度階級●

<b>0</b>	【震度0】 人は揺れを感じない。	<b>1</b>	【震度1】 屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。	<b>2</b>	【震度2】 屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。	<b>3</b>	【震度3】 屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。
<b>4</b>	【震度4】 ●ほとんどの人が驚く。 ●電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 ●座りの悪い置物が、倒れることがある。 <b>2011年(平成23年)3月11日14時46分 東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)の三島市の震度</b> <b>2011年(平成23年)3月15日22時31分 静岡県東部地震の三島市の震度</b>	<b>5弱</b>	【震度5弱】 ●大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ●棚にある食器類や本が落ちることがある。 ●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	<b>6弱</b>	【震度6弱】 ●立っていることが困難になる。 ●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ●耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。	<b>5強</b>	【震度5強】 ●物につかまらなさと歩くことが難しい。 ●棚にある食器類や本で落ちるものが増える。 ●固定していない家具が倒れることがある。 ●補強されていないブロック塀が崩れることがある。
		<b>6強</b>	【震度6強】 ●はわないと動くことができない。飛ばされることもある。 ●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。 ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。 ●大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。	<b>7</b>	【震度7】 ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。 ●耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。		

## ●南海トラフ地震に関する情報の種類と発表条件●

「南海トラフ地震に関する情報」は、南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりについてお知らせするもので、この情報の種類と発表条件は以下のとおりです。

### 「南海トラフ地震に関する情報」の種類及び発表条件

「南海トラフ地震に関する情報」は、以下の2種類の情報名で発表します。

情報名	情報発表条件
南海トラフ地震臨時情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合</li> <li>観測された異常な現象の調査結果を発表する場合</li> </ul>
南海トラフ地震関連解説情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況の推移等を発表する場合</li> <li>「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合(ただし南海トラフ地震臨時情報を発表する場合を除く)</li> </ul> <p>※すでに必要な防災対応がとられている際は、調査を開始した旨や調査結果を南海トラフ地震関連解説情報で発表する場合があります</p>

### 「南海トラフ地震臨時情報」に付記するキーワードと各キーワードを付記する条件

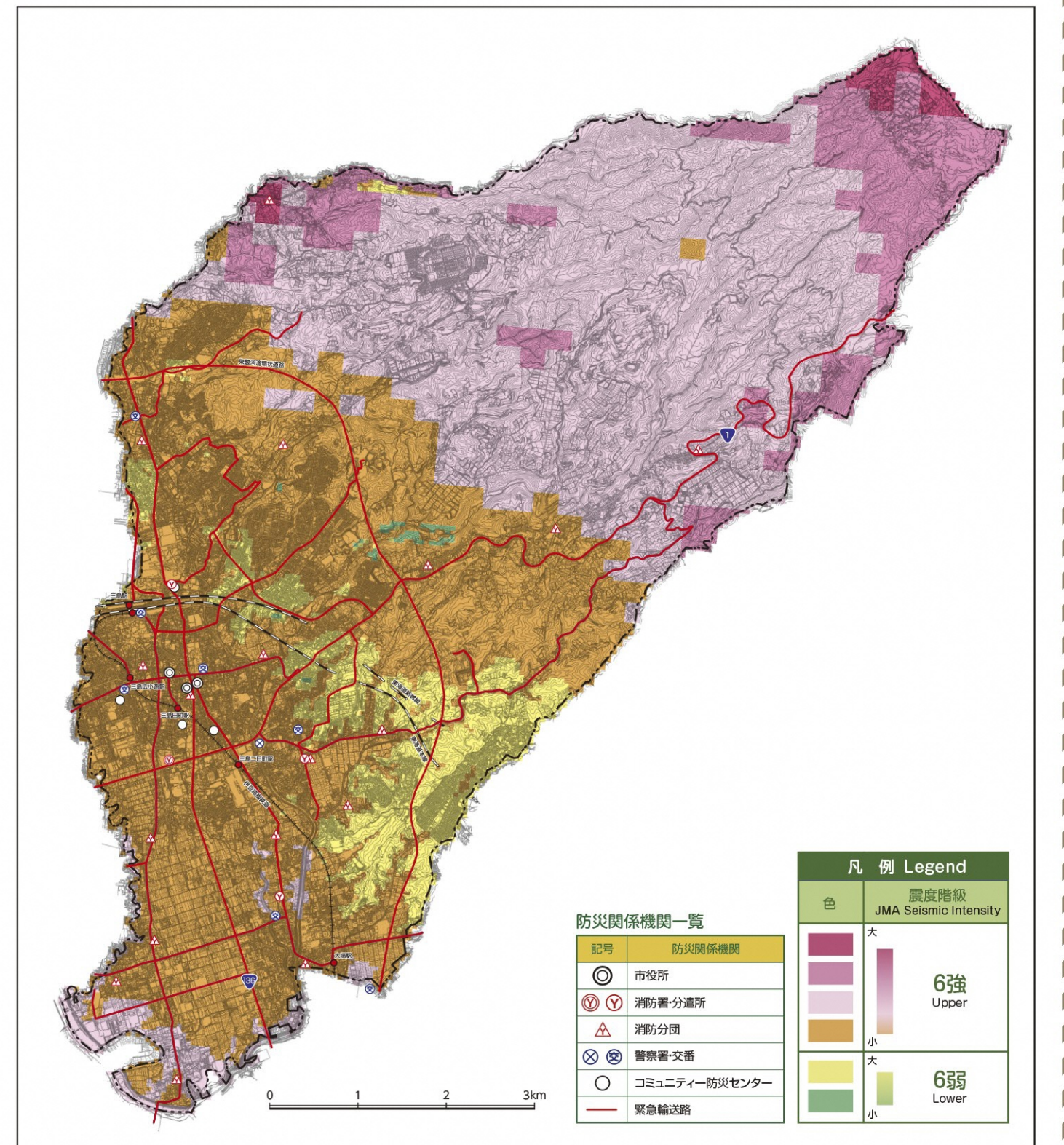
情報名の後にキーワードを付記して「南海トラフ地震臨時情報(調査中)」等の形で情報発表します。

キーワード	各キーワードを付記する条件
調査中	下記のいずれかにより臨時に「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催する場合 <ul style="list-style-type: none"> <li>監視領域内でマグニチュード6.8以上の地震が発生</li> <li>1カ所以上のひずみ計での有意な変化と共に、他の複数の観測点でもそれに関係すると思われる変化が観測され、想定震源域内のプレート境界で通常と異なるゆっくりすべりが発生している可能性がある場合など、ひずみ計で南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる変化を観測</li> <li>その他、想定震源域内のプレート境界の固着状態の変化を示す可能性のある現象が観測される等、南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる現象を観測</li> </ul>
巨大地震警戒	想定震源域内のプレート境界において、モーメントマグニチュード8.0以上の地震が発生したと評価した場合
巨大地震注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>監視領域内において、モーメントマグニチュード7.0以上の地震が発生したと評価した場合(巨大地震警戒に該当する場合は除く)</li> <li>想定震源域内のプレート境界面において、通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価した場合</li> </ul>
調査終了	(巨大地震警戒)、(巨大地震注意)のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合

# 揺れやすさマップ

## ●揺れやすさマップについて●

この「揺れやすさマップ」は、静岡県が平成25年6月に公表した「第4次地震被害想定」で想定された南海トラフ巨大地震(震源域：基本型、東側型、陸側型)、元禄型関東地震および大正型関東地震の5パターンに、想定直下地震を加えた6つの地震に対する揺れの大きさ(震度)の予測結果を重ね合わせて、それぞれの地域で生じる可能性のある最大の揺れの大きさを取りまとめたものです。このマップをご覧になって、地震に対する備えなどに役立てましょう。



**凡例 Legend**

色	震度階級 JMA Seismic Intensity
濃い紫	大 6強 Upper
薄い紫	小 6弱 Lower

**防災関係機関一覧**

記号	防災関係機関
◎	市役所
Ⓜ	消防署・分遣所
△	消防分団
Ⓧ	警察署・交番
○	コミュニティ防災センター
—	緊急輸送路

初版発行 平成26年3月  
改訂 平成29年2月

地震

地震



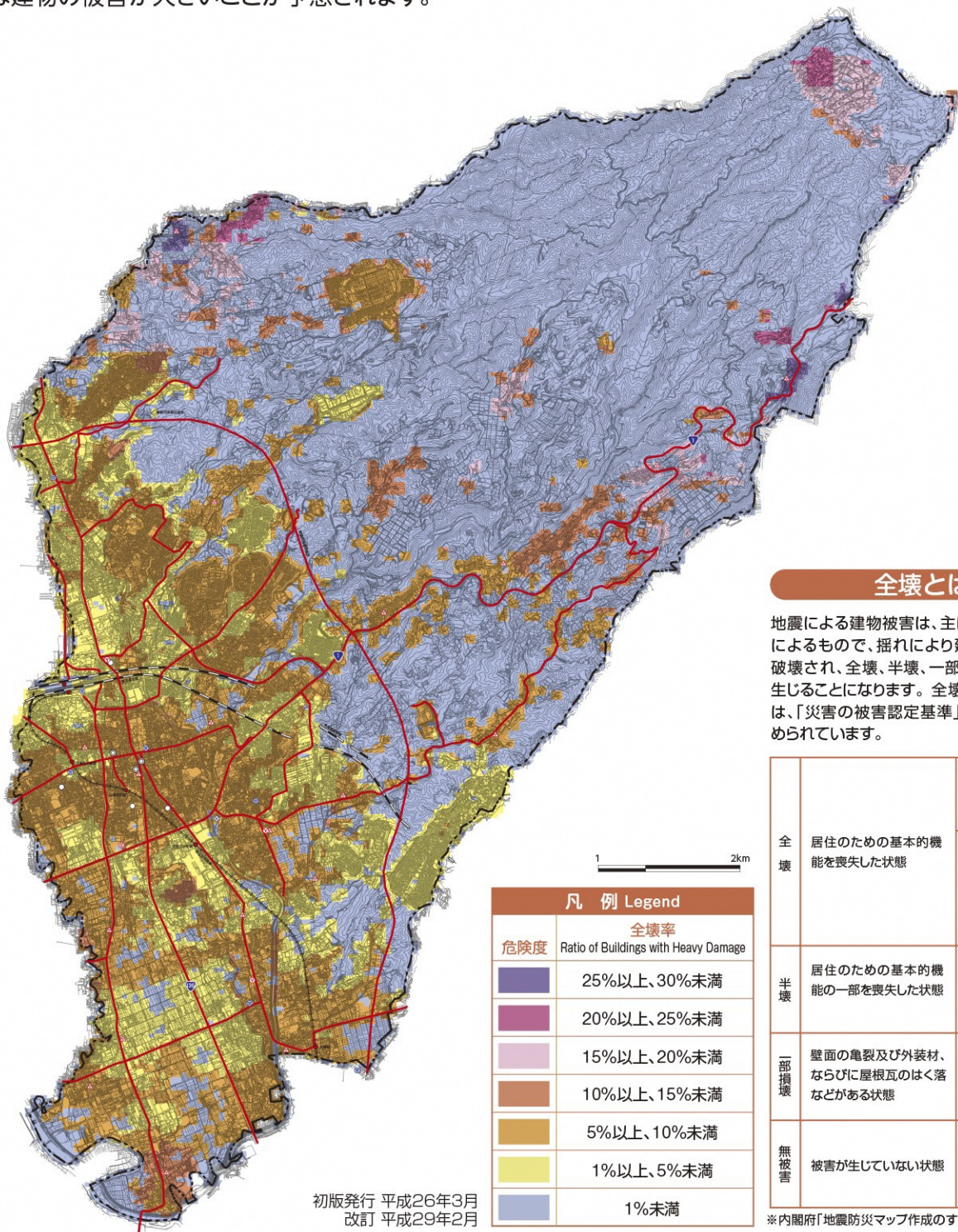
# 地域の危険度マップ

## ●地域の危険度マップについて●

「地域の危険度マップ」は、大規模な地震が発生した場合に全壊する建物の割合(全壊率)を危険度として現した地図です。

- 全壊率は、地域ごとに建物の構造、建築年次などを基に50mメッシュごとに算定・表示しました。
- 建物全壊率の数字が大きいほど、地域の地震に対する危険度が高くなることが予想されます。
- 全壊率は、地域の状況を集計した値であり、個々の建物の耐震性を評価したものではありません。

大規模な地震が起きたときに、予想される震度が大きい場所や、昭和56年以前に建てられた木造家屋が多い地域では建物の被害が大きいことが予想されます。



### 全壊とは？

地震による建物被害は、主に揺れと建物の構造によるもので、揺れにより建物の柱や梁などが破壊され、全壊、半壊、一部損壊といった被害が生じることになります。全壊・半壊の被害の定義は、「災害の被害認定基準」の中で国によって定められています。

全壊	居住のための基本的機能を喪失した状態		全体または一部の階が倒壊した状態
半壊	居住のための基本的機能の一部を喪失した状態		柱・梁の破壊により、内部空間が欠損した状態
一部損壊	壁面の亀裂及び外装材、ならびに屋根瓦のはく落などがある状態		
無被害	被害が生じていない状態		

凡例 Legend	
危険度	全壊率 Ratio of Buildings with Heavy Damage
	25%以上、30%未満
	20%以上、25%未満
	15%以上、20%未満
	10%以上、15%未満
	5%以上、10%未満
	1%以上、5%未満
	1%未満

初版発行 平成26年3月  
改訂 平成29年2月

※内閣府「地震防災マップ作成のすゝめについて」を基に作成

# 液状化危険度マップ

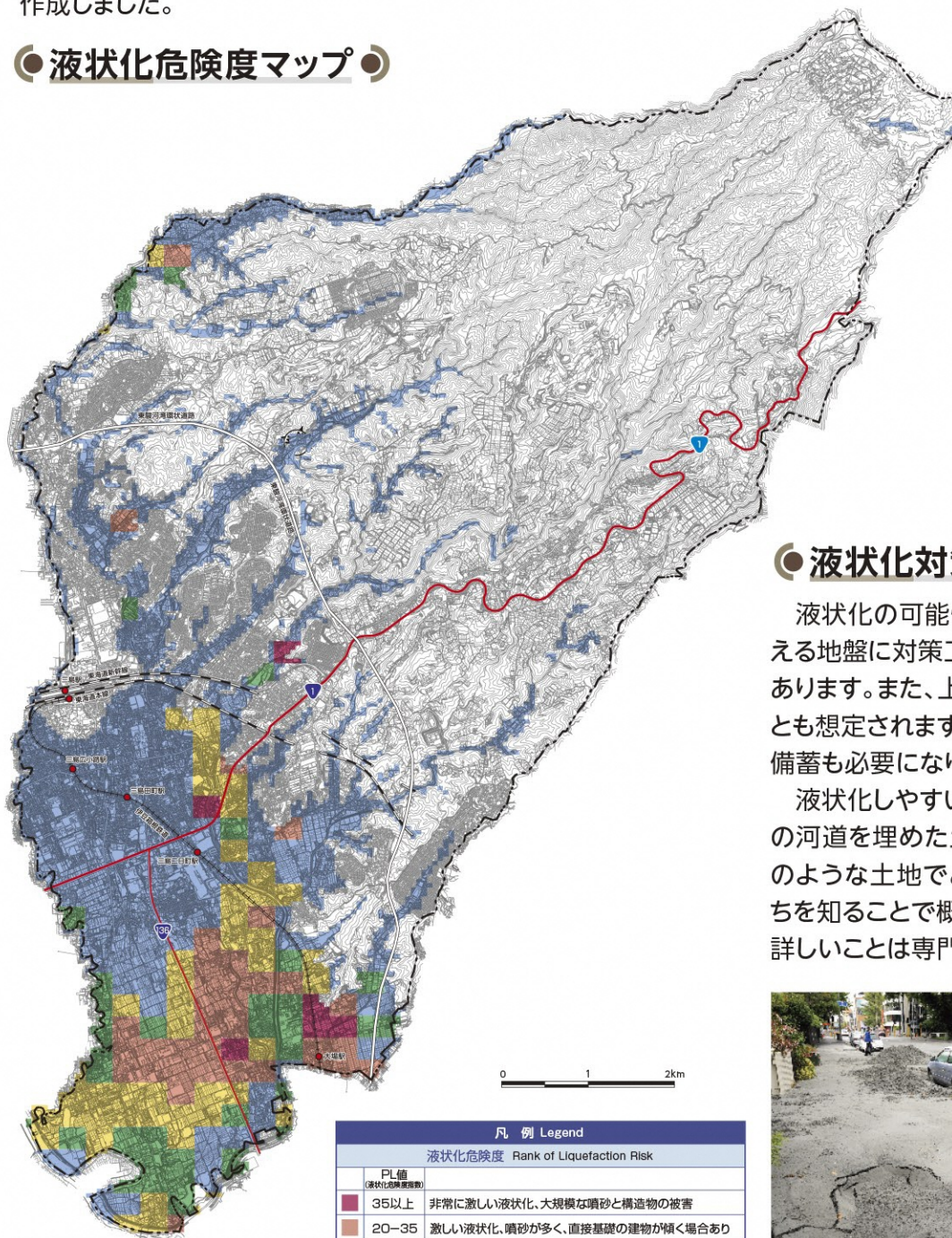
## ●液状化現象とは●

地下水位が高く、緩い砂質で構成される地盤では、地震後に液状化という現象が起きることがあります。液状化が発生すると、マンホールや貯水槽が押し上げられ、繋ぎ目が破損したり、地盤沈下により建物が傾いたりすることがあります。

## ●液状化危険度マップについて●

この「液状化危険度マップ」は、地震発生時に「液状化現象」が予想される地域について、現象が発生する可能性を色分けして表示したもので、静岡県が公表した「第4次地震被害想定」で想定された結果と地形地質資料を参考に、作成しました。

## ●液状化危険度マップ●



## ●液状化対策●

液状化の可能性のある地域では、建物を支える地盤に対策工事を行う必要がある場合もあります。また、上下水道設備に被害が及ぶことも想定されますので、飲料水や簡易トイレの備蓄も必要になります。

液状化しやすい場所は、埋立地、干拓地、昔の河道を埋めた土地などが挙げられます。このような土地であるかどうかは、その成り立ちを知ることで概ね把握することができます。詳しいことは専門家に相談して下さい。



凡例 Legend	
PL値 (液状化危険度)	液状化危険度 Rank of Liquefaction Risk
	35以上 非常に激しい液状化、大規模な噴砂と構造物の被害
	20-35 激しい液状化、噴砂が多く、直接基礎の建物が傾く場合あり
	10-20 液状化は中程度、構造物によっては影響の出る可能性がある
	5-10 液状化の程度は小さい、構造物への影響はほとんどない
	0-5 液状化はほとんどなし、被害なし
	岩盤等の地盤で液状化の発生がないと予想される区域

初版発行 平成26年3月  
改訂 平成29年2月